

鹿児島歴史資料 防災ネットワーク

地域の歴史資料(資源)で 歴史学と社会をつなぐ — 能動的市民性(シチズンシップ)を育むために —

報告者

川畑 舞桜 (鹿児島大学教育学部)

「能動的市民性の形成を目指す歴史資料保全研究の新展開」

日本学術振興会 科学研究費補助金・基盤研究B (2022~2025年度) 研究代表者・丹羽謙治

導入

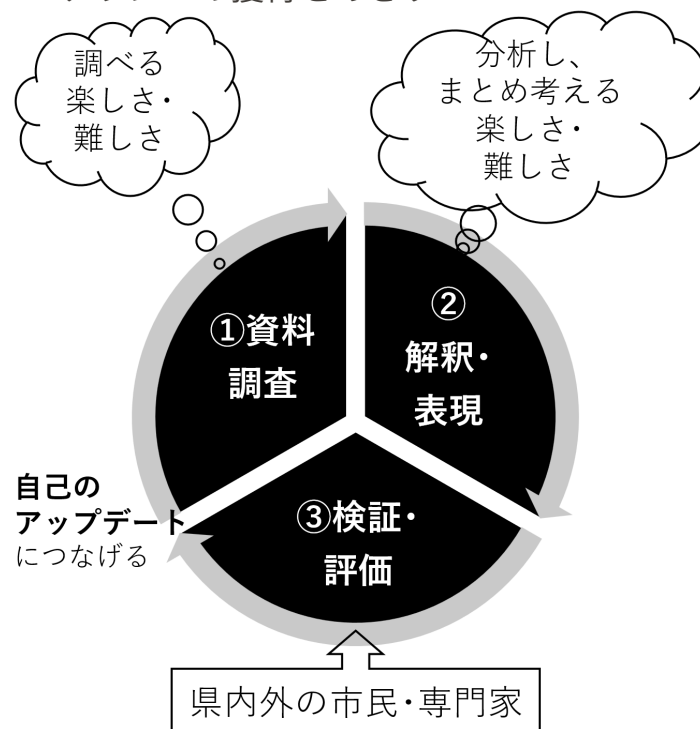
歴史学と社会をつなぐ核となり得る可能性を秘める地域の歴史資料を、人間と社会の新たな関係性を創出するための人材の育成や能力の養成に活用する。

目標

- 歴史研究者が歴史を語り(発信し)、それを享受(受容)する市民/研究者が市民を「啓蒙」するという構図からの脱却
- 歴史資料を残すことが人びとの日々の生活にどれだけ有益なのか、人びとは歴史研究になにを期待しているのか、歴史学と市民の新たな関係性の構築
- 市民を主体とした資料調査→解釈・表現→評価・批評から歴史リテラシーの獲得をめざす

方法論

- 市民を主体とした資料調査→解釈・表現→評価・批評から歴史リテラシーの獲得をめざす



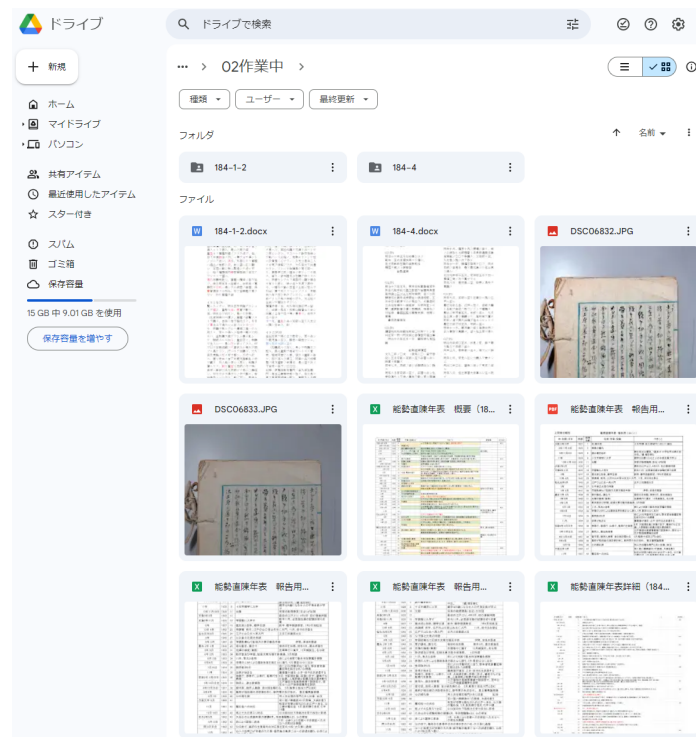
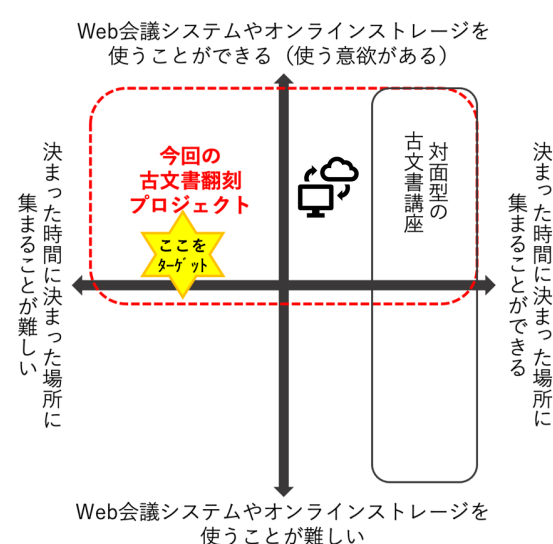
結果

- 「歴史リテラシー」とはなにか
 - 社会生活をよりよくするために歴史を賢く使っていき能力
 - 現代な課題にどう取り組んでいくか思考する能力
- ↓
- 研究者と市民の歴史資料に対する意識や、歴史を考えることに対する思考のズレを解消する。

実践①

「佐土原藩能勢直陳文書」
能勢直陳(1821-1894)
江戸後期-明治時代の儒者。
文政4年10月生まれ。能勢明陳の子。日向佐土原藩士。
江戸で山口菅山に学ぶ。帰藩後、藩校学習館の学頭から教主にすすみ、藩政改革にも加わる。薩英戦争では、宗藩の薩摩鹿児島藩を助け、その戦後処理にあたった。明治27年8月12日死去。74歳。通称は二郎左衛門。号は卓軒。
『日本人人名大辞典』講談社。

オンラインストレージ(Googleドライブ)とWeb会議システム(zoom)、コミュニケーションツール(Googleチャット)を活用して古文書を翻刻。



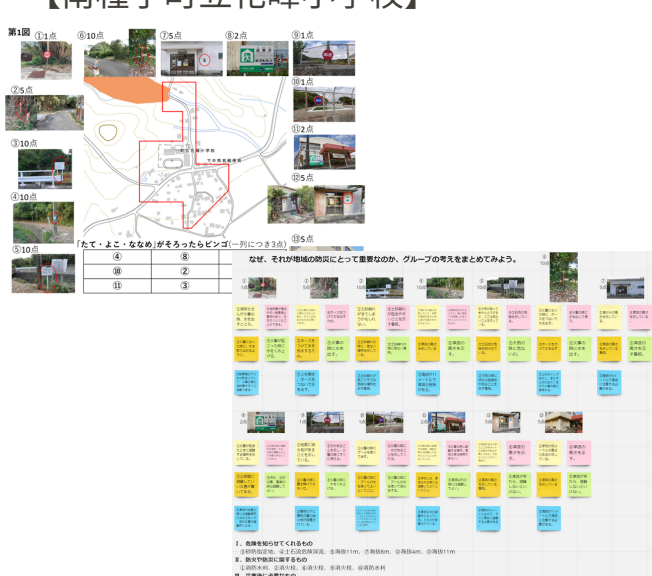
結論

- 参加者の活動前から活動後への協力的態度(提供、受領、成員間)を測定し、参加者が緊張・不安を抱えていても活動の目的を理解したうえで取り組みれば、活動中の成員間関係により、活動後の協力的態度の促進や肯定的感情の獲得につながる。
- 活動の目的、内容、参加者の構成などの設定によって、参加者が獲得する態度や感情が大きく変わる。
- 参加者が持ち合わせている知識や意識による差も、協力的態度の促進と肯定的感情の獲得によって互いに補完し合うことが可能。

実践②

【防災ロゲイニング】
地域にある防災に関する施設や設備を制限時間内に数多く回り、獲得した点数の多さを競うゲーム
そのねらいは、地域の防災に関するエレメント(I.危険なもの、II.防災や防火に関するもの、III.災害後に必要なもの)を回ることで、防災の視点で街を見る目を養うこと、ゲーム感覚で、防災活動への参加のきっかけをつくることにある。

【南種子町立花峰小学校】



【鹿児島大学版 防災ナビゲーションゲーム】

9	2	10
8	7	14
15	6	4

関連文献

- 藤田勉・佐藤宏之・福満博隆「集団内の協力的態度を促すナビゲーションアクティビティ」『鹿児島大学教育学部研究紀要(教育実践編)』第75巻、2024年印刷中
- 佐藤宏之・藤田勉「防災資源の発見と活用をうながす探索活動の実践」『鹿児島大学教育学部研究紀要(教育実践編)』第75巻、2024年印刷中